

産学協働プログラム

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」
プログラム説明会

国立大学法人 東京科学大学
環境・社会理工学院



2025年6月24日

本日のスケジュール

15:00～15:40 **プログラムの狙い、進め方について**

環境・社会理工学院 学院長 岩波 光保

15:40～16:00 **参加企業のご紹介**

16:00～16:30 **質疑応答**

16:30～17:30 **参加者交流会（自由参加）**

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇プログラムの背景

地球環境問題への対応、巨大化する自然災害への備え、生物多様性の確保、グローバルな経済活動とローカルな歴史、文化、生活の両立など現代社会を取り巻く課題は複雑化しています。わが国では人生100年時代の到来により社会の形が大きく変わろうとしています。

人類が歴史上経験のしたことがない大きな変化の中で、ひとの考えや行動はどのようになるのか、持続可能な社会をどのように実現していくのか、社会を支える都市やインフラをどのように構築するのか、今こそ考え抜くべき時と我々は考えます。

以上の認識のもと、産学協働プログラム「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」を企画しました。皆様とご一緒に考え、行動したいと思います。

◇プログラムの狙い

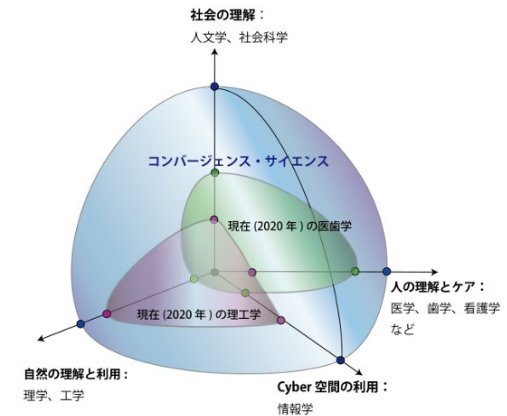
Science Tokyoの多様な領域の「知」に加え、参加企業や広く社会の「知」を融合し、長期的な視点に立って、「ひと」や社会の変容、都市・インフラのあり方と実現のための課題の解明に向けて活動します。

- 「ひと」の考えや行動はどのように変わっていくのか？
- 持続可能な社会とは？ 社会を支える都市・インフラとは？
- どのように実現していくのか？
- 世界に貢献するために、我々はなにをすべきか？

◇プログラム期間

2025年6月～2028年3月

2024年10月 Science Tokyoが始動 コンバージェンス・サイエンス



世界をリードする10の研究分野



理工学分野と医療分野の最先端領域を推進し、社会課題の解決や豊かな未来社会の実現に貢献していきます。

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇プログラムの特長

➤ 理工学、医歯学、人文社会科学にわたる超学際研究

環境・社会理工学院を中心に、Science Tokyoの多様な研究者を結集した超学際研究チームを編成し、長期的な視点で検討を進めます。

➤ Science Tokyoの世界最先端の科学技術の活用

先進エネルギー、建設、情報、AI、医療、生命科学など世界をリードする領域とのコラボレーションにより、最先端かつ高度な視点で議論を進めます。

➤ 参加企業、専門家、行政との対話による課題の追求

参加企業、国内外の専門家や行政との対話により、研究にとどまらず、社会にとって実践的な成果を目指します。

➤ 参加企業とともに成果を社会へ提言

プログラムの成果を取りまとめ、研究論文、SNS配信、シンポジウム開催、書籍発刊などにより、参加企業とともに広く社会へ提言します。

➤ 次代を担うリーダーの育成

3年間のプログラム活動を通じて、企業からの若手参加者が次代を担うリーダーとして成長することができます。また、プログラムに参加する本学学生のキャリア形成やリーダーシップ力の涵養にも寄与します。



“明るい未来社会の形成のために今できることをともに”

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇コアテーマ

「ひと」に関わる検討を基礎に、次の3つのコアテーマについて検討します。具体的な進め方については、企画・連絡会議で参加企業と議論した上で決定します。

#1 ウェルビーイング×都市・インフラ

-ウェルビーイング(well-being)とは、「身体的にも、精神的にも、社会的にも満たされた状態」であり、今後の社会、都市・インフラのあり方を考える上で重要な概念。
-一人ひとりのウェルビーイングを実現する、これからの都市・インフラのあり方を探求。

～幸福、健康、ヘルスケア、ワークスタイル、行動変容 …

#2 循環経済×都市・インフラ

-循環経済/サーキュラーエコノミー(circular economy)とは、製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化する経済システム。都市・インフラ分野でも取組。
-”循環経済“の実現に向けて、長期の視点で、都市・インフラのあり方を探求。

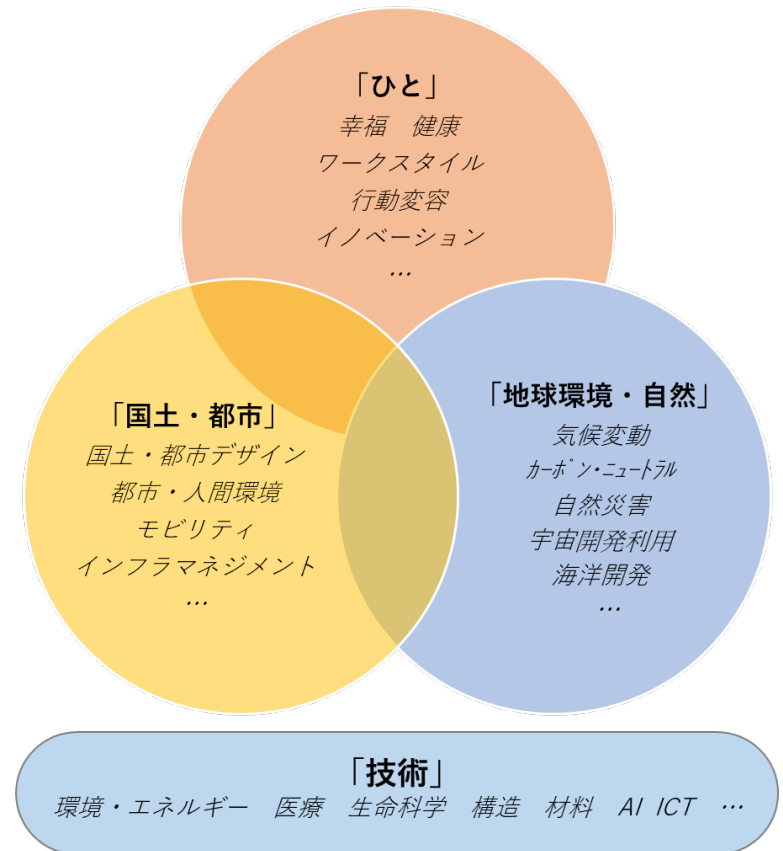
～ホールライフカーボン削減、グリーンインフラ、3R(Reduce, Reuse, Recycle)、エネルギー、メンテナンス、モニタリング …

#3 フロンティア領域×都市・インフラ

-宇宙、海洋などフロンティア領域における未来の都市・インフラの可能性を多角的かつ先導的に探究。

～政策動向(宇宙戦略等)、フロンティア技術 …

「ひと」、「国土・都市」、「地球環境・自然」、「技術」にわたる研究領域の融合—超学際—により検討を進める



「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇プログラムの構成

◎コアテーマに関する産学連携研究

本学教員が研究代表者を務め、本学教員・学生、参加企業とともに先導的な研究を展開します。ワークショップを通じて、全参加企業と成果を共有します。具体的な研究内容や件数については、企画・連絡会議で議論して決定します。

- 企画・連絡会議(年3回程度)
- ワークショップ (年3回程度)
- コアテーマに関する講演会
- 先進事例視察(年1回程度)
- 学生×会員企業マッチングイベント(参加企業限定)
- 公開シンポジウム(年1回)
- オフサイトミーティング(予定)
- キャンパス、企業オフィス等での社会実験(予定)

◇推進体制

Science Tokyoコア検討チームを編成し、参加企業とともに継続的に活動します。

総括 環境・社会理工学院 学院長 岩波 光保

ステアリングコミッティ

建築学系 教授 鍵 直樹

土木・環境工学系 教授 高橋 章浩

融合理工学系 教授 野原 佳代子

イノベーション科学系 教授 仙石 慎太郎

社会・人間科学系 教授 調 麻佐志

大学院 保健衛生学研究科 公衆衛生看護学分野 教授 月野木 ルミ

大学院 医歯学総合研究科 茨城県北西部地域医療学講座 教授 石田 岳史

* 専任の特任教員、スタッフを配置予定。

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇本プログラムへのご参加について

- ご寄附 1社当たり 500万円(年間)
- 税制上の優遇措置 法人税の全額損金算入
 - ・ワークショップ、企画・連絡会議については、参加メンバー登録制とします(1社当たり5名まで)。
 - ・先進事例視察に関わる旅費等に関しては各社負担とします。

◇参加企業様のメリット

- ひとや社会、都市・インフラに関わる課題や知見に触れ、**企業として進むべき方向性を探る**ことができます。
- ワークショップ、企画・連絡会議などへの参加を通じて、貴社の**人材育成に活用**していただけます。
- 公開シンポジウム、ホームページなどで、貴社のお名前を外部に発信します。**“社会に貢献する会社”としてのPR戦略に活用**していただけます。
- マッチングイベント、インターンシップ等により、**学生との交流を図る**ことができます。

◇参加していただきたい業種

建設業、不動産業、住宅、鉄道、電力、ガス、自動車、電機、ヘルスケア、情報通信、IT、商社、金融、保険など
都市・インフラに関心をお持ちの企業

※オプション

ご要望に応じて、貴社とScience Tokyo研究室との個別の共同研究の支援をいたします。

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇お問い合わせ

- 環境・社会理工学院
URA(リサーチ・アドミニストレーター) 米山 晋 yoneyama.s.c850@m.isct.ac.jp
清原 康代 kiyohara.s.6fbc@m.isct.ac.jp
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1-W9-83 TEL : 03-5734-2260

<ご寄付関連について>

総務企画部 社会連携課
太田 努 ota.t.874e@m.isct.ac.jp
三沢 恵子 misawa.k.2459@m.isct.ac.jp
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1 T2 TEL : 03-5734-7619

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

* 登壇者は予定

◇活動計画案(2025年6月～2026年5月)

時期	活動	内容・体制案	備考
2025年 6月24日	プログラム説明会 15:00～16:30	・プログラムの狙い、進め方について 総括 岩波光保 学院長 ・会議終了後、参加者交流会(自由参加)	
7月22日	キックオフ シンポジウム 15:00～17:30 講演会 17:30～ 懇親会(会費制)	・講演 大竹尚登 理事長、岡田就将 教授、分山達也 准教授 ・若手教員によるパネルディスカッション * 参加企業の経営層にもご参加頂きたい	
7月31日	講演会・ワークショップ(1) 15:00～17:30	・コアテーマに関する講演、意見交換 月野木ルミ 教授(公衆衛生)、鍵直樹 教授(建築環境)、千々和伸浩 教授(インフラ維持管理)、 中村隆志 准教授(海洋)	
9月25日	講演会・ワークショップ(2) 15:00～17:30	・コアテーマに関する講演、意見交換 石田岳史 教授(地域医療)、秋田大輔 准教授(宇宙) 他	
10月	企画・連絡会議(1)	・産学連携研究のテーマおよびチーム編成について	
11月～	産学連携研究チーム活動	・本学教員と参加企業メンバーの協働。研究チームごとに活動。	
時期未定	先進事例視察	* プログラム参加者のうち、希望者	国内外の事例 選定
2026年4月	ワークショップ(3)	・研究チーム活動の共有とディスカッション	
4月(5月)	学生×企業マッチングイベント	・参加企業と学生の双方からプレゼン、意見交換	
4月(5月)	企画・連絡会議(2)	・活動のまとめと来季の活動について * 各社代表者1名参加	
5月(6月)	公開シンポジウム	・講演およびパネルディスカッション ・活動の総括と来季の計画	

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇2026年6月～ 骨子案

- 産学連携研究チームの活動(継続)
 - ・キャンパス、企業オフィス等での社会実験(検討)
- 企画・連絡会議
- 講演・ワークショップ
 - ・オフサイトミーティング 等
- 先進事例視察
- 学生×企業マッチングイベント
- 公開シンポジウム 等

「持続可能な社会を支える都市・インフラ学」

◇参加企業

旭化成ホームズ株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社共立メンテナンス
清水建設株式会社
大成建設株式会社
株式会社竹中工務店
東急建設株式会社

東急不動産株式会社
西松建設株式会社
富士通株式会社
森ビル株式会社

(敬称略)

* 2025年6月24日現在